

約15年間、保育士として就職、35歳から准看護師、52歳から正看護師として病院勤務。

「ひきこもり高野山の僧となる」

手もかからず、反抗期もなく、塾にも行かずに進学校に入り、有名国立大学に入学し、官庁に就職も決まった長男が、所請「ひきこもり」状態になるとは予想だにできなかった。

私自身は長男が20才になるのを機に離婚をし、長女を大学に通わせて就職するのを心待ちにしていた時期であった。

就職直前に官庁への就職をキャンセルし、大学院受験に準備に入った時期であったが、一生は一度だからと気にもとめず送金だけはきちんとしていた。

ある時、家主から家賃催促の手紙がきて、家を訪ねると山のよなゴミが散乱していた。

夜は出かける様であるも、昼間は家にいる様な状態であり、時折猫の治療費の請求書もあったが、勉強しているのだと信じて疑わなかった。

大学院の準備金は送金したが、受験する気配すらなかった。服装もあれていた。

ある時、会いにいき、今後のことをきくと、「死にたい」という。

もう3年近い日々が流れていた。私は死ぬのは自由だけど少し早いのではないかと答え、家への帰り道でずっと泣いていた。

新聞やテレビで親が子を、子が親を引きこもりがきっかけになって殺すという凄惨な事件がいくつもおきていた。無差別殺人の犯人も何年かひきこもりをしていた等という週刊誌の記事をみる度、ただ泣くだけだった。

80才近い父を連れて子供にも会いにいった。子供はただ何をしたらいいかわからないのか、人生を無情に感じているのがわか

らなかった。ただ一緒に食事をしたり、紅葉をみたり、友達の所へつれていったり、所請、傾聴、見守りの7年間の様だったと思う。

私は自分の人生設計通り、正看の道をめざし、勉強中であり、子供は自分の意思でどうにかなるさとたかをくくる事にした。

生まれてくるのも人生、親と暮らすのも人生、自分で自分の道を選ぶのも人生と思っていた。

あの子のせいで、私は勉強のできる子の親として優越感もあじわい、一流高校の様子を知り、国立大学の様子もわかったじゃないか、私は幸せな親だったと思う事にした。

7年がたったある日、大学院に受かったと電話があった。ない金を工面し、大学院の入学資金を作ってやった。奨学資金に落ちた事を知り、すべての貯金を生活費にあててやった。大学院で又ちがう人間関係もでき、ひきこもり状態からとびたった様だ。

この7年間の間に自分の涙をすべて使った様な気がした。長い様な短い様な日々だった。

大学院の修工課程が終わり、大学の教師を目ざすと思っていた頃、子供から僧侶になりたいと電話が入った。どう答えていいのかわからなかった。僧侶という世界がわからない、世襲制の強い世界で子供が生きていけるのかどうか私にはわからなかった。

でも自分で切り描いた世界なら行ってほしい、もう一人の私がいった。

私は年老いていた。自分一人で生きるだけで精一杯だった。反対する気力もなかった。「好きな道を進んで嫌なら帰っておいで」と私が言える精一杯の言葉だった。

1年間、遠い高野山で辛い修行をして、今年の春、僧侶となった。

長い長い春だった。

子供は今も遠い所で僧侶として生きているのだろう。世の中の無情やルールを知り生きているのだろう。涙も流しているのだろう。

子供を信じよう。自分の子供なのだから。どんな風に生き様と子供を信じよう。

子供が小さかった頃、どんなに親を幸せにしてくれたか思いだそう。この世に授かった幸せを思いだそう。

長い冬の後には春が来る事を信じよう。自分も本当に辛かったことを仲間に告げよう。仲間にも春がくることを告げよう。

7年たってようやく自分から解放され、ボランティアで「ひきこもり」の子供を見守れる余裕もでてきた。

力をぬいて、子供を見守っていこう！ 疲れたら休んで見守っていこうと！ と誰にもいえる素直な親になれてありがとう。当然君のお陰だよ。本当に感謝してる。